

日本 ASEAN 友好協力 50 周年記念事業

日本と ASEAN の若者が共に描く 2050 年の世界

～「高齢化社会」、「多様性」、「環境・防災教育」に関するアクションプラン発表～

国際交流基金（JF）と公益財団法人かめり財団は、ASEAN 大学ネットワークと共同で、ASEAN 各国と日本の若者間の相互理解を深めるための交流事業「日 ASEAN ユース・フォーラム Take Actions for Social Change 2023」を 2023 年 7 月から実施しています。11 月 24 日（金）には、プログラムの集大成となる、参加学生によるアクションプランの最終発表会を開催します。



この事業は、日本 ASEAN 友好協力 50 周年を記念する事業で、ASEAN 大学ネットワークに加盟する ASEAN の 30 大学と日本の 10 大学から選ばれた 30 名の学生が、『2050 年に向けて、より良い世界を共に創る』という大きなビジョンの実現に向けて活動するものです。「高齢化社会」、「多様性」、「環境・防災教育」の 3 つのテーマに分かれ、オンライン研修や ASEAN でのフィールドトリップ、訪日研修を通して、共に学び、課題解決のためのアクションプランを作成します。参加学生は対話と協働の経験を通じ、視野の拡大、異なる文化環境への受容性と寛容性の向上、そして社会変革に向けたアクションへの意欲とスキルを身につけることが期待されます。



過去、半世紀にわたり、日本と ASEAN は、さまざまなレベルで関係性を強化し、心と心の繋がる友人として絆を育んできました。現在、ASEAN 諸国は経済、社会面でもダイナミックな変化を遂げつつあり、日 ASEAN パートナーシップ深化の重要性がますます高まっています。

本最終発表会は、日本と ASEAN の次代を担う若者の協働作業の成果披露の場であるとともに、将来に長く続く人的ネットワーク形成の始まりとなることを目指しています。

ASEAN でのフィールドトリップ活動時の様子



タイ（高齢化社会グループ）



フィリピン（多様性グループ）



インドネシア（環境・防災教育グループ）

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

イベント名：日 ASEAN ユース・フォーラム Take Actions for Social Change 2023

アクションプラン最終発表会

日 時：2023年11月24日（金）

13時～ 最終発表会（開場12時40分）

17時～ レセプション（交流会）

会 場：ホテルニューオータニ東京（東京都千代田区紀尾井町4-1）

シリウスの間 最終発表会

アリエスの間 レセプション（交流会）

言 語：英語・日本語（同時通訳有）

主 催：国際交流基金（JF）、公益財団法人かめのり財団

共 催：ASEAN 大学ネットワーク

※最終発表会およびレセプション（交流会）は招待制であり、事前の申し込みが必要です。

●アクションプラン最終発表会

13時00分～

開会、主催者等挨拶

プログラムの概要説明

コメンテーターの紹介

各学生チーム（3テーマ×2チーム）によるアクションプランの発表

コメンテーターからのフィードバック

全体講評（コメンテーター）

16時30分

閉会（予定）

※開始時間はプログラムおよび進行の都合で若干前後する可能性があります。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

当日発表される各チームのアクションプランに対し、以下の3名の専門家がそれぞれフィードバックを行います。なお相澤伸広 九州大学大学院准教授は、プログラムアドバイザーとして学生を支援しています。

■コメンテーターの情報

プロフィール（敬称略）	
	<p>相澤伸広（AIZAWA Nobuhiro）〈本プログラムアドバイザー〉 九州大学大学院比較社会文化研究院 准教授</p> <p>専門はインドネシア政治、タイ政治、都市化と政治、東南アジア華僑。現在は、デジタル化をめぐる国際政治と、東南アジアにおける新興エリート・ネットワークに関する研究に取り組む。京都大学アジアアフリカ地域研究研究科で博士号取得。インドネシア・戦略国際問題研究所（CSIS）で客員研究フェロー、政策研究大学院大学研究助手、立命館大学非常勤講師、米コーネル大学客員研究員、タイ・チュロンコン大学客員研究員、米国ウィルソンセンタージャパンフェローなどを歴任し、2007年から現職。ジョージメソン大学 Movement Engaged リサーチハブ研究員兼任。著書に『華人と国家ーインドネシアのチナ問題』（書籍工房早山）。雑誌などにも多く論文を掲載している。日本 ASEAN 友好協力 50 周年有識者会議委員。</p>
	<p>パタラポン・インタラクムナード（Patarapong Intarakumnerd） 政策研究大学院大学 教授</p> <p>専門は科学技術政策。タマサート大学、ケンブリッジ大学を経て、2000年にサセックス大学で博士号を取得。タイ国家の革新的な構造やアジアの新興工業経済地域、産業クラスター、後発企業の技術キャパシティとその発展、革新的な能力と競争における財政上の動機など、研究分野は多岐にわたる。過去には世界銀行、ユネスコ、国連貿易開発会議、経済協力開発機構、国際協力機構、ドイツ開発政策研究所、カナダ国際開発研究所、ASEANとERIA（東アジア）の経済研究所のアドバイザー、コンサルタントを歴任。</p>
	<p>中山 万帆（NAKAYAMA Maho） 笹川平和財団 平和構築支援グループ グループ長</p> <p>東京大学教養学部で比較文化を学んだ後、1994年から1年間ロータリー財団奨学生としてロンドン大学大学院東洋アフリカ学院社会人類学修士課程で学ぶ。1996年、独立行政法人国際交流基金に入職、日本と海外の「文化交流事業」に携わる。2001年から4年間、国際交流基金ジャカルタ日本文化センターに勤務。駐在時期のインドネシアは変動期で、テロ事件や地域紛争も多数あった。国際交流基金退職後、2008年9月に笹川平和財団へ主任研究員として移り、2022年から平和構築支援グループにてグループ長を勤める。</p>

本プログラムでは、ASEAN 各国で活躍する以下 3 名の社会活動家がメンターとして、各テーマについての知識の共有やアクションプランへのアドバイスをを行いました。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■メンターの情報

プロフィール（敬称略）	
	<p>チャークリット・プロウンヨット（Charkhris Phomyoth） <タイ・高齢化社会グループ> Young Happy／最高経営責任者</p> <p>Young Happy の先進的な CEO であるチャークリット・プロウンヨット氏は、革新的なデジタル・ソリューションを駆使し高齢者の活躍の場を広げる展望を持つタイ出身の社会投資家である。健康寿命と寿命との隔たりをなくし、人々が精力的に年を重ねるための大きな変革を社会にもたらすために、研修の提供をはじめ、ソーシャルエンゲージメントの実施やアプリの活用など、革新的なイニシアティブをとっている。</p>
	<p>ジョン・ポール・エカルマ・マウネス（John Paul Ecarma Maunes） <フィリピン・多様性グループ> フィリピン障がい者アクセスサービス／創設者、最高経営責任者</p> <p>有資格看護師として勤務する傍ら、ボランティアとして非政府組織から自身のキャリアをスタートさせた。フィリピン障がい者アクセスサービス（PADS=Philippine Accessible Disability Services Inc.）を設立し最高経営責任者になると同時に、さまざまな障害を持つメンバーから構成される PADS Dragon Boat Team も立ち上げ、2023 年に国際ドラゴンボート連盟主催の第 13 回世界大会のパラ・ドラゴンボート部門でフィリピン初の優勝を成し遂げた。数々の受賞歴を有しており、アショカ・フェローシップ（2014 年度）や国際交流基金主催事業「ダイバーシティをはぐくむ EYES プロジェクト」（2018 年度）のフェローでもある。</p>
	<p>エヴァ・バクティアル（Eva Bachtiar） <インドネシア・環境・防災教育グループ> Garda Pangan／共同創設者、最高経営責任者・StarSide Edukasi／創設者・Alang-Alang Zero Water Store／創設者・Loss and Waste and Disaster Education／コンサルタント</p> <p>社会投資家であり、HANDS!プロジェクト（国際交流基金主催）におけるインドネシアからのフェローでもある。フードロスやごみ問題の解決策をワンストップで提供する社会経済企業である Garda Pangan の共同創設者兼 CEO であり、余剰食糧を恵まれない地域コミュニティに提供したり、食料廃棄物を飼料として再利用する活動などにも寄与している。また、ゲーミフィケーションを通じて防災教育を行う StarSide Edukasi ならびにスラバヤに店舗を構える Alang-Alang Zero Waste Store の創設者でもある。彼女自身もまたフードロス並びに防災教育のコンサルタントであり実践者でもある。</p>

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■参加学生の情報

出身国（五十音順）	人数
インドネシア	3名
カンボジア	3名
シンガポール	2名
タイ	3名
フィリピン	3名
ベトナム	3名
マレーシア	1名
ミャンマー	3名
ラオス	3名
日本	6名

■事業の実施スケジュール

2023年

7月22日（土）	オリエンテーション
7月30日（日）	オンライン事前研研修
8月27日（日）～9月1日（金）	ASEAN フィールドトリップ・タイ（高齢化社会グループ）
8月29日（火）～9月3日（日）	ASEAN フィールドトリップ・フィリピン（多様性グループ）
9月3日（日）～9月8日（金）	ASEAN フィールドトリップ・インドネシア（環境・防災教育グループ）
10月15日（日）	オンライン中間研修
11月19日（日）～11月26日（日）	訪日研修 ※東京および広島を訪問

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp